

## ついに、プロ仕上げの主演 西山舞の結論的アイシャドウ完成!

「もしアイシャドウを1品しか持てないなら、全ての人がこれを選んでくれる……  
そんな究極のアイシャドウを、そして時代を問わない普遍的なアイシャドウを作りました。」



2017/9/1発売



スキンベージュ

スキンビーチ

限定色 2017/11/1発売



ドラマティックムーヴ

エクスポーテ  
エクサーティスト  
**ミューズアイ**  
全3種(限定1種)  
3,800円(税抜)

### プロ仕上げの差を思い知らされるのはアイシャドウ

プロと素人の差が最大となるのは、言うまでもなくアイシャドウ。その差は永遠に埋まることがないのかもしれませんが、それも、**「眼」という「小さいけれど極めて表情豊かなキャンパス」**に何をどう塗るかは、メイクの醍醐味であるとともに、極めて難易度の高いことだから。口紅やチークは、商品自体が進化するほどに、誰もがノーテクニックで同じ仕上がりを得ることができるようになりますが、アイシャドウばかりは、商品がいかに進化しても、テクニックは同じように要求されます。だから、差も縮まらないのです。

### ならばプロ仕上げの極意を、そのままに再現するアイシャドウができないか?

「この色はここに塗り、こちらの影色はここに塗る」というふうに、塗る場所を丁寧に特定し、失敗なく導くアイシャドウは、すでに数多く存在します。ただそれでも、差が縮まらないとしたら、プロ仕上げの極意は、単純に色の正しい配置だけではない、もっと別のところにあるということ。だからまさにその知られざる極意を、メイクアップアーティスト西山舞氏がそっくり再現するアイシャドウの開発に挑んだのです。

### 埋まらない差の正体は、質感のグラデーションにありました

まぶたは、そこはかたく漂う印象美を作る上で、とても大切なキャンパスとなる場所。だからこそ、単に色の配置だけでない、ニュアンスの美しさを描けるかどうかで、大きな差がついてしまうのです。ましてや、まぶたはカーブを持った立体。メイクアップアーティスト西山氏はそれも色のグラデーションはもちろん、質感のグラデーションで再現できると考えました。

### Message from Mai Nishiyama



商品名の“Muse”は、熟考された、女神・象徴となる女性。顔の中でも目とは印象を左右する重要なパーツであるため、自然で美しい仕上がりが求められます。私が目指したのは、色のグラデーションではなく、質感のグラデーション。肌に溶け込むようなツヤを感じながらも、大人が使いやすい質感の違うブラウンを重ねるだけで、プロが仕上げたような美しい大人のアイメイクが簡単に完成します。

ヘア&メイクアップ  
アーティスト **西山 舞**

